

ミヤマキリシマを訪ねて：根子岳、久住山～中岳～坊がつる

齊藤 整紀

●2019年6月1日（土）～4日（火）

●メンバー 村山 隆 (CL)、齊藤 整紀

●始めに

30年程前、薄の季節、久住山ピストンを行ったが、小島さんの山行報告が忘れられず、またヤマケイ『究極の絶景』に載るミヤマキリシマが、どうしても見たくて、村山氏のプランに乗せてもらった。

●コースタイム

6月1日（土） 晴れ時々曇り

葛西（バス）5:09⇒羽田空港（JAL）6:25 ⇒8:10 熊本空港（リッパ）⇒10:50 中原登山口→根子岳東峰（昼食）12:40～13:20→15:00 中原登山口（リッパ）⇒18:00 筋湯温泉・大黒屋（泊）

阿蘇は噴火警戒レベル2で、高岳、中岳には行かれない為、五岳3位の根子岳に向かう。熊本空港から登山口に向かって暫くすると、突然、「通行止め」が！ナビには迂回路が出ていないため、他人に聞いたり、地図を見たりで、中原登山口を目指す。高岳方面と別れて、東の細い道の先に牛舎があり、その裏が登山口で、マイクロバスも止まっている。見上げると阿蘇には珍しい尖塔の根子岳が！上るのは東峰である。晴天ながら雨が前に降ったか、蒸し暑い。樹林帯は径が湿り、滑り易い。以前上った中岳から高岳への火山性のガラ場の記憶とは雰囲気が違う。

途中、花が終わりかけたツツジを見かける。ミヤマキリシマである。急登続きの2時間弱も、上りは足に問題ない。根子岳東峰 1408m は、盛りのミヤマキリシマ越しに根子岳の尖塔、高岳、中岳を望む絶景スポットである。



下山に掛るころには、泥土も大分乾き、滑らなくなった。しかし下りでは、脹脛に張りがあり、慎重に下る。下山後、久住山登山口に近い筋湯温泉に向かう。質素な小さい温泉街だが、深田久弥も泊まったらしい。中でも大黒屋は古い旅館だが、何故か中国人の若い女性グループも。8千円ですべて！地味だが味のある旅館である。

6月2日（日） 小雨のち曇り

筋湯温泉（リッパ）⇒牧ノ戸峠 P6:30→扇ヶ鼻分岐 7:30 →久住山 8:30～9:00→中岳 10:00→久住別れ 11:50→14:00 法華院温泉山荘（泊）

朝5時過ぎ、懐かしい「やまなみハイウェイ」で久住山登山口の牧ノ戸峠駐車場に着いたが、何処も満車で、やむなく路駐。やはり今年の九重連峰山開きが、この久住山で行うせいだろう。登山口周辺は30年前よりもコンクリートの造作物が増えた様な気がする。予報が悪く、既に小雨で、支度が揃い次第、続々登山道へ！私は、昨日同様、足が悪いのでゆっくり進む。中間地点の扇ヶ鼻分岐辺りから傾斜がきつくなり、時々ミヤマキリシマの小群生も見かけ、写真に精を出す。左手に岩肌の荒々しい星生山が特異な山容を晒し、右手奥には颯爽とした久住山が望まれる。



突然、賑やかな集団が近づいて来た。赤いタオルを鉢巻きに、ザックにザイルを結んだ目立つ出で立ち、ミキボランティアがファンを連れ、質問に答えている。「山はレイヤーだよ。」などなど。中岳分岐下の斜面で、歩道仕切りのロープの補修ボランティア！ご当地の出身者で、いつもなさっておられるようだ。頭が下がる。



久住へは東斜面を回り込むように上るとミヤマリンドウの群生が見事だが青空が欲しい！既に山頂には相当な人が集まっているが、10時の開山式に向けて更に増えそうである。我々は中岳に移動。中岳分岐でミターボランティアを見かけたので、中岳へのルートを探ねたところ、早く安全なルートを丁寧に教えて下さった。さすが、ご当地のことは詳しい。丁度開山式の始まる10時に九州本土一の中岳 1791m から久住山を見ると、しがみ付く様に山頂付近に人だかりが出来ている。

雨がやや強まり、展望も遠くは無理だが、九重連山の様子はよくわかる。諸山高さはさほどでないが、それぞれ个性的である。御池が足元に見える。また、東方を見下ろすと、「坊がつる」は遙か彼方の湿原である。その正面の平治岳は霧の合間、上が一面紅色である。

天狗ヶ城、久住別れ経由で坊がつるを目指す。しつこい歩きにくいゴロ石の下りは足首に響き、辛い。ゴロ石の消えた中宮跡辺りは荒涼とした土漠である。コケモモ群生地から更に1時間余りゴロ石のトラバースと樹林帯の急降下をこなすと法華院温泉の湯煙にホッと一息。あまり雨には打たれなかったが、足元や靴は泥だらけで、それらを洗う施設が整っているのが嬉しい。この予約の取り辛い山荘の別館個室は快適。ただ混雑を若いスタッフが済々と仕切り、味気ない。小島さんがいった「坊がつる賛歌」とは全く別物である。夜中、雨が強まった。



6月3日(月) 曇りのち晴れ

法華院温泉山荘 7:30→大戸越→平治岳 9:30~10:00→
法華院温泉山荘(昼食) 11:30~12:00→中宮跡→すがもり
越避難小屋 14:00→大曲→15:20 牧ノ戸峠 P (インカ-)
⇒18:00 熊本・グリーンホテル

前夜の雨は夜明け前に上がり、ますますの天気である。朝露が落ち着いてから上ろうと、朝食後出発した。湿原の木道右の大船山も皆無ではないが、ほとんどが左の平治岳である。昨夜の雨もさることながら、泥濘の酷い山で、「一石一投」の立て看板があり、石を拾って上げて、途中の泥濘に投げ入れろ、というものであるが、歩きにくいことこの上ない。登山道でパラパラ見かけたミヤマリンドウは、大戸越の高台からは紅絨毯が一面豪華に広がる。



この1mの躑躅の樹間を縫って、一方通行を上がる。ガスの合間を狙ってシャッター！南峰で一旦花は切れるため、我々もここで踵を返す。帰りの下りの一方通行でも、シャッターチャンスは尽きない。これまで荒川前岳やトムラウシなど草丈の低いお花畑を縦断したり、尾瀬などでニッコウキスゲや水芭蕉の木道に行くことはあるが、腰上の花を漕ぐように楽しむのはここが初めてである。



山紅の残像を胸に、ゆっくり下り、山荘で昼食を摂った。帰りは難路の久住別れの壁は避け、中宮跡からすがもり越避難小屋経由で舗道へ下りることにした。避難小屋からの石楠花で有名な三股山は形が良く、疎らながら、

ミヤマリツマも奇麗だ。天気はすっかり上がり、牧ノ戸峠の車までは、炎暑の舗道は辛かった。

熊本駅方面への道路も「交通止め」があり難儀したが、何とか予約のホテルに着いた。夜は、ホテルのビルの居酒屋をハシゴして、馬刺し、辛子明太子、一文字くるくるのご当地3品などで痛飲！

6月4日（火） 晴れ/曇り

熊本駅前・グリーンホテル 8:00 (レンタカー) ⇒ 人吉城址～青井阿蘇神社 (レンタカー) ⇒ 水前寺公園⇒熊本城 P⇒レンタカー返却⇒熊本空港 (ワラント 17) 18:45⇒20:25 羽田空港

予備日は、熊本観光である。まず熊本県南端の人吉に行ってもらった。司馬遼太郎の『翔ぶが如く』で西郷が球磨川を利用したり、佐伯泰英の空也が薩摩に剣術修行に行く際、人吉城址のタイ捨流道場に世話になる場面などに思いを馳せながら、球磨川を見下ろす人吉城址を散策した。更に城址公園で出会った旧東京人に聞いた青井阿蘇神社へ行った。



九州では宇佐神宮と並ぶ2つだけの国宝の神社である。門前の蓮池と太鼓橋が見事！「昭和57年7月25日の洪水痕跡」(建設省)が門前近くにあり驚いた。



次は熊本に戻り、初めての水前寺公園に行ってもらった。震災時は水が抜けたとも聞いたが、今はその影響は全く感じられない。

細川家所縁の立派な出水神社に参拝し園内を周遊した。築山といい、広大な池といい、手入れの作業員が沢山入っており、立派に維持されている。池に漂う人面魚が面白い。



熊本城はまだ修復半ばで、駐車場からの観光である。熊本城は、宿泊のホテルからも眺められたが、駐車場には早い復興を願う人々でいっぱいである。熊本城は遠い昔、阿蘇の草千里等と数回経験があるが、また修復後の姿が見たいものである。



今回の山行では、九重連峰に参った！牧ノ戸峠から秋にピストン4時間で久住山終わりとしていた自分が恥ずかしい。今回、深田久弥に倣い、久住、中岳、坊がつると歩き、その山のスケールを知り、あまつさえミヤマリツマの最盛期に出会えたのは嬉しい限りである。深田も泊まった法華院山荘や筋湯温泉の予約や旅のプランに骨身を惜しまなかった友人に感謝したい。(了)